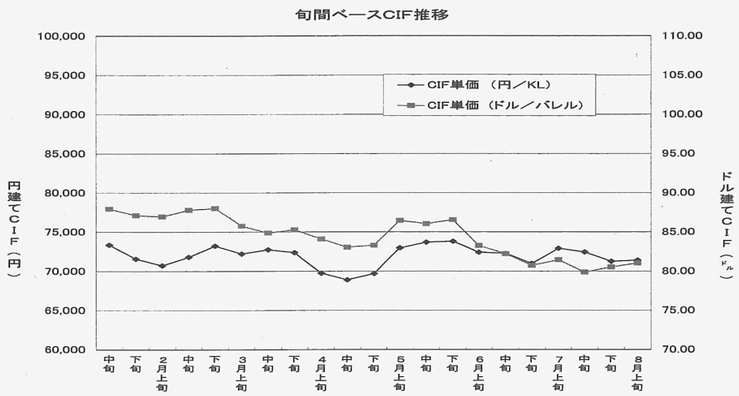
エネルギー業界の“今”と“未来”を応援します
HELLO

8月上旬の原油輸入価格 7万1390円／kℓ

前旬比144円高 3週ぶり上昇 10旬連続の7万円台



財務省が8月30日に公表した貿易統計旬間速報によると、8月上旬の原油輸入価格（CIF＝運賃・保険料込み価格）は円建てが1kℓ7万1390円で、前旬比144円高。3週ぶりの上昇で、10旬連続の7万円台となった。ドル建ては1バレル81・02ドルで、0・50ドル高。2旬連続の80ドル台で、2旬連続で上昇している。

為替は前旬比0・56円の円高で、2旬連続の円高だが、円建てへの下落圧力は限定的だった。円建ては7月中旬から下落が続いたが、今回は上昇した。ドル建ては7月下旬に上昇し、今回は0・5ドル上昇した。

8月上旬の入関数量は567万6000kℓ、総輸入金額は4052億2500万円。

ヒイラギ 防災設備として好評

「少量危険物保管庫GSA-200」

燃料貯蔵タンクや危険物保管庫などを手掛けるヒイラギ（埼玉県春日部市、柊山浩幸社長）の主力商品「少量危険物保管庫GSA-200」が防災設備としての認知度を高めている。

災害が頻発する昨今、不運にも大きな被害に見舞われた場合、とくに自動車用、発電機用の燃料（ガソリンなど）の確保が不可欠。しかし、被災した直後からしばらくの間は、それが困難な状況が多くのケースで想定される。

「少量危険物保管庫GSA-200」は、ガソリンの備蓄を優先した専用のユニット製品であり、危険物として扱われるアルコール消毒液の保管にも対応。「貯蔵量制限」「換気対策」「漏電対策」「静電気対策」「防犯対策」などの諸条件をクリアし、消防法の基準にも則しており、災害時には最大限その導入価値が生かされる。

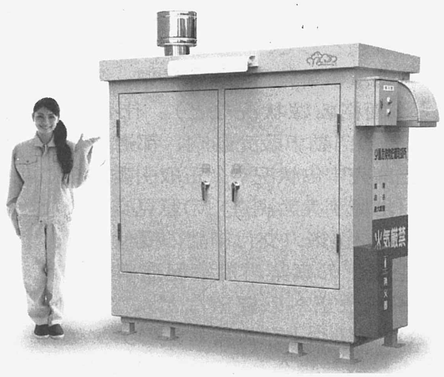
同保管庫の最大の特長は「省スペース」。入室して収納物を取り扱う従来の〝物置型〟から、そのまま扉を開けて取り出す〝高機能キャビネット型〟へと進化させたため、設置場所の選択幅が増えた上、取り扱いやすさが格段に向上している。

ただコンパクトになったからと言っても、使用する容器により異なるものの、最大で972ℓのスペースを確保。耐震スチール棚を標準装備しており、無駄な空間をなくしたことで、戸を開けただけで即座に必要な容器を取り出せる設計構造を採用。しかも国内多くの地域で建築確認申請が不要となっている。

有事の際にも継続した活動が求められる消防署や病院を中心に導入されており、納入先も自動車整備工場、塗装工場、警察署、自衛隊、処理施設、フォークリフト利用の製造工場、避難所など多岐にわたる。

同社の柊山社長は「需要先は至る場所で想定されるため、今後も公共施設を中心に注文は続きそう。販路拡大が見込まれる一方で販売窓口が少ないため、ネットワーク力と防災意識の高さを持つ全国のSSでの油外商品として、この商品を必要としている事業者や施設に届けてほしい」と、同保管庫の販売窓口となってもらえるパートナー募集を呼び掛けている。

関東大震災から100年の今年、全石連主導の満タン&灯油プラス1缶運動が7年目となり、この運動に資する製品であり「収益を増やすSS油外商材」と言える。


少量危険物保管庫GSA-200

4日間で16万人超が来場した防災展の開会式

「東京国際消防防災展2023」

過去最大325出展企業・団体 16万7000人が来場

東京消防庁が6月に東京ビッグサイトで開催した「東京国際消防防災展2023」には、延べ16万6831人が来場。同展は5年に一度のイベントで、関東大震災から100年目の開催ともあって、出展企業・団体数は325と過去最大。最先端の技術や情報が一堂に会し盛大なイベントとなった。

初日の開会式では、吉田義実・東京消防庁消防総監が「当庁でも最新鋭の消防車両、新たな消防施策の展示、バーチャルリアリティによって災害を疑似体験できる〝VR防災体験車〟など防災行動力を高める体験プログラムを用意した。関東大震災から100年を迎える本年、同展を契機に防火・防災について見直し、安全・安心で意義ある展示会となるよう祈念する」と述べた。

共催者の石原清次・東京ビッグサイト社長は「社会、日常生活の高度化、災害の激甚化により、災害への備えも変化してきている。各種災害に備え、防火・防災意識を向上させてほしい」と参加者へ呼び掛けた。

来賓のあいさつでは、小池百合子・東京都知事、三宅茂樹・東京都議会議長、前田一浩・消防庁長官の3人が展示会の開催を祝った。この後タレントの関根麻里さんの同展アンバサダー任命式が行われ、続くテープカットセレモニーにより開会となった。

ドライバーズセミナーシニアコース

JAF和歌山支部 10月21日開催

JAF（日本自動車連盟）和歌山支部（弘田宗博支部長）は10月21日、和歌山市の和歌山県警察本部交通センターで50歳以上を対象にした参加体験型安全運転実技講習会「ドライバーズセミナーシニアコース」を開催する。

内容は、運転の基本（車の点検、運転に適した姿勢、車の死角）や見通しの悪い交差点の安全な通過方法、スラローム走行（運転姿勢やハンドル操作などを確認）、急ブレーキ体験。同乗指導はなし。

正午開始、午後4時30分終了。

参加条件は、50歳以上で運転歴1年以上、マイカーでの参加に限る。車は3・5・7ナンバーの自家用車（任意保険加入済み、ABS付き車両）。

参加費は、JAF会員1100円、一般2200円。

募集台数は10台。最少催行5台。応募多数の場合抽選。締め切り午後5時。問い合わせ部、電話（1）53

日産「アリア」「タイタン」 米で魅力度1位

日産自動車（横浜市西区、内田誠社長）の子会社の北米日産会社は先日、「米国J.D.パワー2023年自動車商品魅力度（Automotive Performance, Execution and Layout＝APEAL＝調査）において、「アリア」と「タイタン」が最も魅力的なモデルに選出されたことを発表した。

この調査は、新車購入後90日が経過した米国のオーナーが、パワートレインやインフォテインメントシステム、運転の快適性など、10カテゴリー、37以上の項目について評価を行うもの。

コンパクトSUV部門において「アリア」のドライバー満足度が評価され、同点1位を獲得。同調査におけるアリアの受賞は初となる。

また、大型ライトデューティ ピックアップトラック部門において「タイタン」は優れたドライバーエクスペリエンスを提供したことが評価され、同部門で1位を獲得した。

日産アリア

トヨタ新型ランクル250シリーズ公開

トヨタ自動車（愛知県豊田市、佐藤恒治社長）は先月、新型ランドクルーザー〝250〟シリーズを世界初公開した。

日本では特別仕様車First Editionを含めて2024年前半の発売を予定している。ーティードクルー継続販売今冬、日る予定。本で再びザー全3揃う。

新型車シリーズFプラッ採用。悪幅に向上ドも含めすさと快せている。

フレー%向上、性として上し、従に剛性強ションのは、悪路となるホィキュレイヤの浮向上した。

また、ハンドルどが図らワーステPS）操作でフライザー替え可能ンド初採（Start wi r onne Mech といった用により・オンロ性能向上る。

左からランクルーザー〝300〟、〝70〟シリーズ、〝250〟シリーズ